

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和8年10月号

今夏からの度重なる大雨により被災された皆様には心から御見舞い申し上げます

千葉県施肥設計支援アプリ「せぴあ」を開発しました

千葉県農林総合研究センター
研究マネジメント室 上席研究員 青木 優作

施肥設計を簡単に行える無料ウェブアプリ「せぴあ」を開発しました。作物や肥料、堆肥を選ぶだけで適切な施肥量や肥料費の目安を確認でき、堆肥を活用した化学肥料の削減にも役立ちます。生産者からも好評で、適正施肥や経営改善を支援するツールとして期待されています。

1. はじめに

近年、肥料価格の高騰や環境負荷低減への対応が農業現場の大きな課題となっています。価格高騰は経営に大きな影響を及ぼすため、これまで以上に適切な施肥やコスト管理が求められています。しかし実際の農業現場では、毎年同じ肥料を同じ量で施用したり、堆肥を慣例的に投入することも少なくありません。施肥基準値に基づく適正施肥を行い、土壌診断や堆肥に含まれる養分を十分に活用できれば、肥料費の削減や環境負荷低減の両立が期待できます。そこで千葉県では、専門的な知識がなくても誰でも手軽に施肥設計ができる「千葉県施肥設計支援アプリ『せぴあ』」を開発しました。

2. 千葉県施肥設計支援アプリ「せぴあ」

アプリの名称は、「施（せ）」肥を「ぴ」ったり「合（あ）」わせるコンセプトから命名しました。「せぴあ」はスマートフォン等で利用できる無料のウェブアプリで、会員登録やインストールは不要です（図1）。

利用者は作物や栽培条件、使用する肥料や堆肥を選び、単価を入力するだけで、施肥量や肥料費の目安をすぐに確認できる点が大きな特徴です。アプリでは、水稻やねぎ等の千葉県の主要な品目の施肥基準に加え、県内で流通する多くの肥料や堆肥の情報を基に施肥設計が可能であり、堆肥や有機質資材を利用した場合の化学肥料削減量も確認できます（図2）。このため、肥料費の見直しだけでなく、効率的な栽培管理にも役立ちます。例えば、堆肥を利用する場合には、堆肥に含まれる養分を考慮して化学肥料の投入量を調整できます。また、複数の施肥設計の費用を比較できるため、施肥効果を維持しながらコスト削減を検討することも可能です。

県内の生産者や関係機関を対象に運用試験を行ったところ、「操作が分かりやすい」「施肥設計の参考になる」といった評価が多く寄せられ、経営改善を支援するツールとして期待されています。

3. おわりに

「せぴあ」はスマートフォン等から利用できます。利用方法等の詳細は、千葉県HPを御確認ください。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/system/sepia.html>
今後も利用者からの意見を取り入れながら機能の充実を進めてまいります。アプリ画面内からアンケートにも御回答いただけますので、是非御意見をお寄せください。



図1 「せぴあ」の表示画面（左）とQRコード（右）



図2 「せぴあ」の主な特徴



市場関係者インタビュー

千葉県農林水産部生産振興課

首都圏マーケティングセンター 副主査 吉野雅人

市場で農産物の販売を行う卸売業者は、農産物の販売を行うだけでなく、様々な情報を取り扱い、日々発信しています。今回、東京青果株式会社営業管理部業務2課の高橋課長及び重松課長補佐に普段の仕事内容や情報発信に当たって産地や生産者に求めることなどお話を伺いました。

1. 営業管理部の仕事内容を教えてください。

営業管理部には業務1課、業務2課、データサービス課の計3つの課があります。日々の販売時における事故（注文との数量の不一致、品質トラブル等）の処理、営業予算の立案補助、販売伝票の入力など、営業に関する庶務的な活動を「広く深く」行う部署となっています。中でも、私が所属する業務2課は日々の相場表や入荷数量報告、青果物の販売見通しを含むホームページ等の更新、テレビ等の取材・お問合せ対応など情報の受発信、販売目標の策定や資料作成といった営業予算の立案補助等を行っています。

2. 青果物の販売見通しの作成業務について教えてください。

毎月、今後1か月の青果物の販売見通しを「展望」として発表しています。作成に当たっては系統外や弊社との取引が少ない産地も含めた各品目の主要産地と連絡をとり、作柄等の情報を収集しています。産地や担当によって得られる情報には濃淡があり、また、こちらも多岐にわたる品目を複数人で分担して作成していることから、なるべく品目や産地間で情報のレベルが同じになるよう心がけています。

3. 近年はInstagramでの情報発信も積極的に行っている印象があります。

社として情報発信力を高めていきたいと考えているところで、Instagramも業務2課で運用しています。令和6年12月にリニューアルしてから、年間100件を超すトップセールス等場内イベントや品目、産地の情報を

積極的に発信しています。ホームページとは異なる層の、より多くの方々に見ていただけているという手応えがあります。直近では、全農ちばさんにも出演いただいた、産地対抗の梨皮むき対決企画が好評でした。



東京青果 公式 Instagram

https://www.instagram.com/tokyo_seika/

4. 産地や生産者に期待することはありますか？

梨皮むき対決企画で、青果物だけでなく、生産者や産地の職員等、人も写った方が良い反応が得られ、より拡散される傾向が見えてきました。一方で、莫大な数の商品を扱っている中で、何から紹介していけば良いのか、取っ掛かりを探しているような状況でもあります。

千葉県は大田市場から近く、産地取材も行いやすいため、産地と密に連携できればより効果的な情報発信につながられるのではと期待しています。出荷者の皆様におかれましては、系統産地か否か、販売金額の大小等は問わず、産地や品目のPRに東京青果を御活用ください。

5. インタビューを通して

青果物販売には座して待つだけでなく、実需者や消費者に情報を伝えていくことが重要と考えさせられました。高橋課長、重松課長補佐、お忙しい中御対応いただき誠にありがとうございました。



地域計画と農地の貸借について ～地域計画は見直していくことが大切です～

千葉県農林水産部農地・農村振興課
農地集積推進室 副主査 太田 黒 駿
技 師 小森谷 汐里

地域の農業者等で地域農業の将来を話し合い市町村が策定した地域計画は、策定後も農業者等の意向や農地利用の変化に応じて見直すことが重要です。また地域計画は農地の貸借にも活用されます。地域の皆様で話し合いの場へ参加して地域計画に自分の意見を反映させ、農地利用の効率化による計画実現を進めましょう。

1. 地域農業の未来を考える～地域計画の見直し～

地域計画は、農地の所有者、耕作者、市町村、農業委員会、農協や土地改良区などが、将来、地域の農地を誰が利用するかを話し合い、おおむね10年後の農地利用の姿をまとめるものです。策定後も、地域の状況の変化に合わせて定期的に見直します。

令和8年3月末時点で、県内では571地区において地域計画が策定されており、155地区で令和7年度中に見直しが行われました。

近年、農業者の高齢化や後継者不足が進む一方、地域によっては、耕作する農地を増やす農業者や、新たに農業を始める方もいます。このため、一筆ごとの農地について、「今後も自分で耕作するのか」「将来、他の農業者に貸したいのか」など、所有者や耕作者の意向を、地域内で共有し将来の農地利用を話し合うことが重要です。

所有者や耕作者の意向を踏まえ、中心となる農業者に農地を集めたり、分散した農地をまとめたりすることで、農作業の効率化や経営の安定が期待されます。また国や県の支援事業には、地域計画や目標地図への位置付けなどが要件の一つとなるものも多くあります。

地域農業の将来のため、意向確認が行われた時は御回答いただくとともに、計画の見直しに向けた話し合いの場への御参加をお願いします。

表1 地域計画の策定・見直し状況（令和8年3月末時点）

市町村	策定	見直し	市町村	策定	見直し	市町村	策定	見直し
千葉市	6	0	富里市	15	1	睦沢町	8	0
習志野市	1	0	酒々井町	4	0	長生村	3	3
市原市	24	0	栄町	4	2	白子町	13	13
八千代市	11	0	香取市	20	7	長柄町	3	0
市川市	0	0	神崎町	3	0	長南町	9	0
船橋市	1	0	多古町	24	10	勝浦市	17	1
松戸市	0	0	東庄町	13	0	いすみ市	51	0
野田市	12	0	銚子市	3	3	大多喜町	49	3
柏市	4	4	旭市	15	15	御宿町	3	2
流山市	0	0	匝瑳市	12	12	館山市	18	0
我孫子市	7	6	東金市	10	0	鴨川市	9	2
鎌ヶ谷市	0	0	山武市	13	0	南房総市	22	22
成田市	10	8	大網白里市	6	5	鋸南町	10	4
佐倉市	6	0	九十九里町	5	0	木更津市	41	5
四街道市	7	4	芝山町	9	2	君津市	6	6
八街市	7	2	横芝光町	7	7	富津市	18	1
印西市	10	0	茂原市	10	0	袖ヶ浦市	4	1
白井市	4	0	一宮町	4	4	合計	571	155

2. 地域計画と農地貸借の関係について

現在、農地を貸し借りする方法には、農地法第3条による農業委員会の許可と、農地中間管理事業の利用があります。

このうち農地中間管理事業は、地域計画と密接に関係しており、原則として、地域計画の目標地図に将来の農地利用者として位置付けられた農業者等への貸付けを進めます（要件を満たせば地域計画区域外の貸借も可能です）。

そのため、地域の話合いを通じて、農地所有者と耕作者の意見を目標地図に反映させていくことが、将来の円滑な農地貸借につながります。



3. 農地中間管理事業の各種メリット

農地中間管理事業には、農地所有者と耕作者の双方に利点があります。

また、地域計画で農地の集約化を目指すなど一定の要件を満たす地域は、農地集約化促進事業による交付金の対象となります。

地域の皆様におかれましては、これらの利点や地域計画と農地中間管理事業の関係について御理解いただき、農地利用の効率化を通じて地域計画の実現を進めましょう。

表2 農地所有者及び耕作者の利点

農地所有者	耕作者
・賃料は機構から確実に振り込まれる	・まとまった農地を長期間安定的に借受できる
・貸した農地は貸付期間終了後に返却される（更新も可能）	・複数の農地所有者から借り受ける場合であっても、賃料は機構に一括して支払い可能
・機構に貸し付けた農地について、条件を満たすことで税制優遇が受けられる	・農地所有者の相続時の対応は機構が行う



ねぎ出荷規格及び出荷箱サイズ統一の取組について

公益社団法人千葉県園芸協会
産地振興部 塩崎 桂司

(公社)千葉県園芸協会では、県や全農千葉県本部、関係JA等を構成員とした千葉県ねぎ協議会を設置し、産地の共通課題に取り組んでいます。今回は協議会で取り組んでいる出荷規格の統一について紹介します。

1. はじめに

千葉県は、埼玉県・茨城県と並び全国トップクラスのねぎ産地で、令和6年の産出額は140億円で、埼玉県に次ぎ産出額全国第2位となっています。しかしながら、県内の主要ねぎ産地では担い手の高齢化が進展しており、生産者・栽培面積の減少など、産地の維持・発展が危ぶまれる状況も見られます。

そこで、当協会が事務局となる千葉県ねぎ協議会（以下、協議会）では、これまで産地の維持・活性化に向けて、初夏ねぎの振興や単位収量の確保、年内出荷率の向上に取り組んできました。今回はその一環として、県内の主要産地で出荷規格及び出荷箱サイズの統一の方向に進みましたので紹介します。

2. 出荷規格の簡素化集約検討期

(平成25～令和2年)

本県産ねぎの中心作型となる秋冬ねぎ・春ねぎは、十分な物量と可食部となる軟白部の安定した長さによる信頼が市場での有利販売につながってきました。しかしながら、生産現場では、厳格な規格での選別作業に労力を要し、生産者の負担になっていること、市場からは、年内出荷が少なく春先に集中出荷となり単価が維持されないことが指摘されており、平成25年に主要産地が参加する会議で、軟白部の長さを年内のみ27cm以上とする規格が提案されました。箱単価の低下が不安視されましたが、市場の協力を得て平成27年に先行2産地が試験販売を行ったところ従来同様の販売が行われました。

3. 出荷箱の変更・出荷規格変更実践期

(令和3年～令和8年)

令和3年から、ねぎの出荷規格の統一の本格的な検討が当協議会の中で始まりました。目玉となる変更は、軟白部の長さを、秋冬・春ねぎの全ての期間で30cm以上から27cm以上に変更する内容です。また、新たな課題として物流2024問題への対応が求められ、T11型パレットに納まる箱が必要となりました。ねぎでは箱の長さを3cm短くすることで対応可能であるため、箱サイズの変更と軟白部の変更を併せて取り組むこととなりました。この変更は土寄せ作業や選別作業の軽減だけではなく、早期出荷の促進や出荷期間中の物量の平準化、商品としての葉と軟白部のバランス、物流2024問題にも対応できるというメリットがあることを各産地と共有することができました。

協議会では、令和4年産から出荷箱の試作・試験販売の実施・生産現場の意識統一などに取り組み、規格の統一に向けた活動を進めました。

出荷箱については、主要産地で令和6年産から順次変更し、令和7年産から主要産地の出荷箱は新しいものにほぼ置き換わりました。統一が遅れた軟白部の長さについても、令和7年産の年内出荷分の統一から始まり、令和8年産からは秋冬・春ねぎの全期間で統一されることが確認されています。

4. おわりに

今回の協議会の取組により、県内主要産地の出荷規格が統一され、物流2024問題にも対応できる準備が整いました。出荷規格が統一されたことで、今後の有利販売につながることを期待されます。協議会では、産地の活性化を目指す活動を関係機関と一丸となり、今後も進めてまいります。

催物結果



“千葉なし味自慢コンテスト” 開催結果

千葉県農林水産部生産振興課 園芸振興室

8月29日（土）～8月30日（日）に習志野市のイオンモール津田沼Northにおいて「千葉なし味自慢コンテスト」を開催しました。今回は、県内の20団体から「豊水」125点の出品がありました。

1日目の専門家による厳正な審査により、上位3賞が決定されました。

コンテストに出品された選りすぐりの梨は2日目に即売され、糖度も高く品質の良い「豊水」の美味しさを消費者の皆様にご存知いただく機会となりました。

賞 名	所 属 組 合 名	氏 名
農 林 水 産 大 臣 賞	白 井 市 梨 業 組 合	鈴 木 教 善
千 葉 県 知 事 賞	白 井 市 梨 業 組 合	白井中央梨選果場組合D
農林水産省農産局長賞	柏 市 果 樹 組 合	濱 田 亮



一日目 審査の様子



二日目 開会式

催物結果



「夏のさつまいも博2026」で 県産さつまいもをPRしました

千葉県農林水産部販売輸出戦略課 ブランディング推進室

県では、「紅（ルーージュ）のご褒美」をキャッチコピーに、本県が全国トップクラスのさつまいも産地であることの認知度向上と「ご褒美スイーツ」としての新しいイメージの普及を図るため、集中的なプロモーションに取り組んでいます。

昨年、本県に誘致した国内最大規模のさつまいも特化型イベント「さつまいも博」が、今年も8月6日から9日までの4日間、幕張メッセで開催されました。全国からさつまいもの有名&実力店が集結し、冷やし焼き芋やかき氷など夏こそ食べたい芋スイーツやフードが数多く用意され、多くの来場者で賑わいました。

県は、イベント期間中にブースを出展し、千葉のさつまいもを使ったお菓子・スイーツを販売し、県産さつまいもの魅力を発信しました。

また、初日のステージイベントで「千葉のさつまいもアンバサダー」である松本まりか氏と世田谷の人気パティスリー「INFINI（アンフィニ）」のオーナーシェフ金井史章氏とのトークセッションを実施。松本氏は、さつまいもを箱買いするほどのさつまいも愛や、千葉のさつまいもの歴史などに触れ、金井氏はパティシエ目線での県産さつまいもの魅力などを語っていただきました。

次回の「冬のさつまいも博」は3月下旬に同じく幕張メッセで開催されます。引き続き「さつまいも博」と連携したプロモーションを行い、多くの方に「さつまいもと言えば千葉県」と認知されるよう、関係者と連携協力して取り組んでまいります。



千葉県ブース

催物案内



千葉県立農業大学校の学園祭第47回「社稷祭」を開催

しゃよくさい

千葉県立農業大学校

令和8年11月7日(土) 9時~14時、8日(日) 9時~13時 「社稷祭」を開催します。

昨年に続き、2日間開催いたします。本校農場にて生産した農畜産物の販売をはじめ、芋掘り体験(有料)、昆虫展、ふれあい動物園などを実施します。

御来場いただいた皆様に喜んでもらえるよう、学生は丹精込めて作物、野菜、果樹、花きなどの栽培及び加工品の生産に励んでいます。

また、学生の取り組んでいる研究内容等については、各専攻教室にてパネルを作成し、展示する予定です。多種多様な栽培技術から農大で開発した新技術の研究まで、多岐にわたる研究テーマについて御覧いただけます。

【開催場所】 千葉県立農業大学校
〒283-0001 東金市家之子 1059

【問合せ先】 TEL : 0475-52-5121

【千葉農大ホームページ】

<https://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>



※詳しくはこちら



※写真は昨年の様子です。

催物案内



「ちばまるしえキャンペーン2026」開催中!

千葉県農林水産部農地・農村振興課 アグリビジネス支援班

県では、県産農林水産物が多く出回る秋から冬にかけて、多くの人に県内の直売所や道の駅、収穫体験施設などを訪れていただくため、昨年度に引き続き「ちばまるしえキャンペーン」を開催しています。

キャンペーン期間中に、対象施設2か所以上を巡って商品の購入や施設を利用した500円以上のレシートを添付して応募すると、宿泊ペアチケットや千葉県の魅力が詰まった県産農林水産物のギフトセットなどの賞品が抽選で当たります。応募は、WEBフォームまたはキャンペーンチラシ内の応募用紙の郵送で行うことができ、どなたでも気軽にキャンペーンに御参加いただけます。

詳細は、千葉県公式観光サイト「ちば観光ナビ」内のキャンペーンページでWEBフォームの他、参加施設や賞品を紹介していますので、是非御覧ください。

ちばまるしえキャンペーンを通じて、県内の多彩で魅力的な農林水産物をより多くの方に知っていただけると幸いです。この機会に是非、県内のさまざまな施設を訪れ、千葉の恵みを味わってみてはいかがでしょうか。皆様の御応募をお待ちしております。

【期 間】

令和8年9月16日(水) ~ 令和9年1月4日(月)

【問合せ先】

千葉県農林水産部農地・農村振興課 TEL : 043-223-2963

詳細については「ちばまるしえキャンペーン2026」で検索!

ホームページはこちら →

<https://maruchiba.jp/theme/chiba-maruche/>

